



小樽市



【小樽運河(夏)】



【堺町(夏)】



【雪あかりの路(冬)】

[小樽市の概要]



将来都市像

歴史と文化が息づく

健康、にぎわい、協働のまち

| | |
|----------|--------------------------|
| 面積 | 243.30 k m ² |
| 人口 | 135,500 人 (平成 21 年 3 月末) |
| 高齢化率 | 30.38% (") |
| 世帯数 | 61,546 世帯 (") |
| 観光入込客数 | 714 万人 (平成 20 年度) |
| 地域ブランド調査 | 6 位 |

「ブランド総合研究所」調べ

小樽市の産業



酒

ワイン

水産加工品



クッキー



キャラメル



ぱんじゅう



第1回「小樽がらす市」を旧国鉄手宮線で開催

【定住自立圏構想への取組】



【北後志地域】

北後志地域は小樽市、余市川水系の余市町・仁木町・赤井川村農業地域と余市町・積丹町・古平町の東積丹漁業地域により形成されている。

小樽市は重要港湾小樽港・石狩湾新港を有し、後志・道央圏の物流、日本海沿岸の交流拠点都市である。

農業地域は道内最古の歴史を有する果実の産地であり、都市近郊農業の傾向が強く、付加価値の高い農産物の生産を行っている。

漁業地域は日本海に突出した積丹半島を中心に自然あふれる漁業資源を有し、また海岸景勝地として国定公園・海中公園などがある。

人口の推移と産業の集積の推移

| | 1985 | 2009 | 2035 |
|----------|---------|---------|---------|
| ○人口減少(人) | 172,486 | 135,500 | 83,945※ |

| | | | |
|-----------|------|------|------|
| ○少子高齢化(%) | 12.7 | 30.4 | 43.5 |
|-----------|------|------|------|

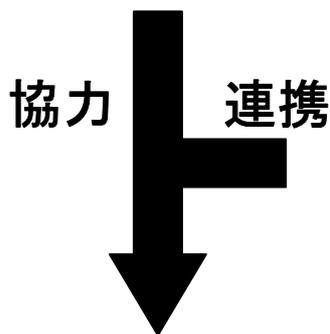
※日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）より

| | H9 | H14 | H19 |
|-----------------|--------|--------|--------|
| ○商業の概況（卸売業・小売業） | | | |
| 従業者数(人) | 14,000 | 14,511 | 11,730 |
| 年間商品販売額(億円) | 4,078 | 3,430 | 2,930 |

※小樽市統計書より

小樽市の課題

- 人口減少（札幌市に隣接）
- 少子高齢化（雇用がなく，若者が流出）
- 産業の活性化（流通型産業の衰退）
- 魅力あるまちづくり（中心市街地の空洞化）
- 行政の枠を超えた取組（新たな資源の発掘）



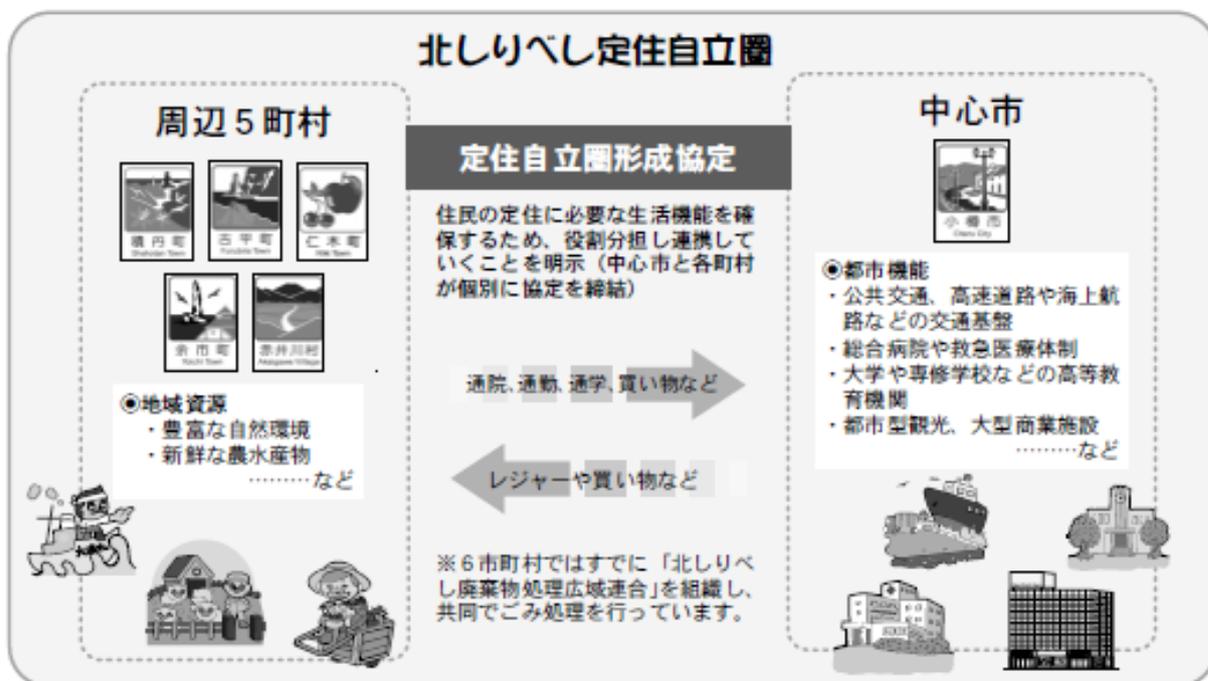
周辺町村の課題

- 少子高齢化
- 地域医療の確保
- 主要産業である農水産業の活性化

<広域的な取組>

「安心して暮らせる地域の形成」

北しりべし定住自立圏構想の概要



《取組の背景》

市町村の境界を意識することなく往来し、周辺町村は本市の都市機能を、本市は周辺町村の自然や農産物などの恩恵を互いに享受している。

行政面においても「北しりべし廃棄物処理広域連合」を組織している



交流の目が培われていた

《目指すべきもの》

経済、雇用、医療、福祉、教育などの機能を維持していくためには、役割分担の下、広域的な取組により、都市機能と地域資源を活用しながら一体的な発展と住民の利便向上を図る

連携が想定される取組項目（中心市宣言書より）

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

- 医療
救急医療体制や小児・周産期医療体制の整備など、市立病院、公的病院及び民間病院における役割分担と医療連携によるネットワーク化の推進と医療機能の更なる充実
- 産業振興
 - ・ 地域の農水産物を活用した加工品の開発及びブランド化の促進と地域特産品や新商品の効果的なPR
 - ・ 中国との定期コンテナ航路の活用などにより、東アジアを含めた国内外への販路拡大
- 広域観光
 - ・ 都市型観光と、自然や新鮮な農水産物など周辺町村の観光資源とを有機的に結び、圏域内の魅力のPR
 - ・ 観光商品の開発や新たな観光ルートの開拓による観光客の滞在時間の延長
- 教育
圏域内の生涯学習機会の充実

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

- 地域公共交通
中心市と周辺町村を結ぶ生活路線や通勤・通学などの交通手段の維持・確保
- デジタル・ディバイドの解消へ向けたICTインフラの整備
地域医療連携や広域行政サービスの充実など、ICT利活用の推進
- 道路等交通インフラの整備
高速道路（小樽～黒松内）、鉄道（駅）、海上航路（港）とのアクセス網を充実し、効率的な交通ネットワークの形成
- 生産者と消費者の連携による地産地消
直売システムの構築など、生産者と消費者の連携による地産地消の取組
- 地域内外の住民との交流・移住の促進
移住促進を図り、宿泊・自然体験などによる余暇メニューの充実による圏域内外の住民との交流

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

- 人材の育成
小樽市内の大学との連携・交流により、職員の資質の向上
- 外部からの人材の確保
民間企業等経験者の採用、他自治体職員との相互交流、専門家の招へいによる、職員の政策マネジメント能力の醸成
- 圏域内市町村の職員等の交流
圏域職員の合同研修、人事交流などによる人材の育成

北後志5町村の「まちの概要」

| | |
|--|--|
| <p>町村名 積丹町</p> <p>人 口 2,729人(21. 3末)</p> <p>高齢化率 40.5%(65歳以上)</p> <p>産 業 農業 かぼちゃ、乳用牛、肉用牛</p> <p>水産業 たら、ほっけ、かれい、いか、うに</p> <p>観光施設 神威岬、積丹岬、海底探勝船 キャンプ場</p> | <p><まちの概要></p> <p>積丹町はニセコ積丹小樽海岸国定公園の一角をなし、北海道で唯一の海中公園に指定されています。積丹半島先端部には北海道遺産である神威岬があります。</p> <p>産業の中心である漁業の中でも特にウニは積丹町の名物であり、6月のウニ漁、秋のサケ漁、冬季のタラ漁と四季を通して水揚げがあります。</p> |
| <p>町村名 古平町</p> <p>人 口 3,896人(21. 3末)</p> <p>高齢化率 36.8%(65歳以上)</p> <p>産 業 農業 米、いちご、野菜</p> <p>水産業 すけとうだら、ほっけ、かれい他</p> <p>観光施設 ふるびら温泉、家族旅行村 五百羅漢油絵</p> | <p><まちの概要></p> <p>古平町は、積丹半島の東側中央部、積丹町と余市町に隣接しています。</p> <p>余市町から古平町までの区間に鉄道はなく、公共交通としては余市町や小樽市から定期バスが1日16往復開設されています。小樽市までは車利用の所要時間は1時間弱であります。町の産業の中心は水産業であり、現在の主な漁獲物は、エビ、タコ、ホッケ、カレイなどです。古平町ではタラコの製造量が2,000tで、明太子を除いたタラコ製造において、全国の出荷量の10%を占めています。</p> |
| <p>町村名 仁木町</p> <p>人 口 3,874人(21. 3末)</p> <p>高齢化率 33.4%(65歳以上)</p> <p>産 業 農業 水稻、りんご、ぶどう、トマト</p> <p>観光施設 観光果樹園</p> | <p><まちの概要></p> <p>仁木町は後志管内北部に位置し余市町に隣接した町であり小樽まで24Kmの距離です。港基幹産業は農業で、特に、りんご、さくらんぼ、ぶどうなどの果樹栽培が盛んで”フルーツの町”として有名であります。</p> |
| <p>町村名 余市町</p> <p>人 口 21,702人(21. 3末)</p> <p>高齢化率 30.6%(65歳以上)</p> <p>産 業 農業 りんご、ぶどう、桜桃、トマト</p> <p>水産業 えび、さけ、たら、かれい、いか他</p> <p>観光施設 ニッカウキスキー工場、文化財 観光果樹園</p> | <p><まちの概要></p> <p>余市町は、積丹半島の東の付け根に位置する町です。かつては、ニシン漁により発展し町の基礎を築いてきましたが、現在は、ニシンに代わって、「えび」、「いか」、「かれい」漁などが盛んに行われています。一方、果樹の栽培が明治初期からリンゴ、ブドウ、梨などが生産されています。</p> <p>また、余市には、豊富な山海の幸を利用した食品加工業の歴史があり、身欠きニシンや燻製などの水産加工製品、そしてワインやウイスキーの醸造業も盛んです。</p> |
| <p>町村名 赤井川村</p> <p>人 口 1,231人(21. 3末)</p> <p>高齢化率 28.2%(65歳以上)</p> <p>産 業 農業 馬鈴薯、ブロッコリー、花き 他</p> <p>観光施設 キロロリゾート、山中牧場 アリスファーム</p> | <p><まちの概要></p> <p>赤井川村は周囲を札幌市、小樽市、余市町、仁木町、倶知安町、京極町に囲まれた緑豊かな「カルデラの里」で、村の総面積の8割が山林です。</p> <p>主産業は、農業と観光業です。農産物は、米、馬鈴薯、南瓜など品目は多岐にわたり、北海道で栽培できる農産物は何でも出来るといわれています。近年はハウス栽培の増加に伴い、野菜の占める割合が増加しています。また、ここ数年で花き栽培もはじまり、栽培面積は年々増えています。観光としては、「キロロ・スノーワールド」があり、秋には、味覚祭り、冬はスキー客と多くの方が訪れています。</p> |